

令和7年度 第5回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和7年11月17日（月）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、金子 朋子
大橋 信之、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香

1 広島市新型インフルエンザ等対策行動計画について（資料1-1、資料1-2）

本市では、新型インフルエンザ等対策特別措置法（特措法）の規定に基づき、予め有事の際の対応策を整理し、平時の備えの充実を図るものとして、平成26（2014）年3月に「広島市新型インフルエンザ等対策行動計画」（市行動計画）を策定した。

この度、新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）対応で明らかとなった課題等を踏まえ、今後の感染症危機に際し、国や県の方針に迅速かつ的確に対応していくことができるよう、国が改定した新型インフルエンザ等対策政府行動計画（政府行動計画）及び県が改定した広島県新型インフルエンザ等対策行動計画（県行動計画）に基づき、平時の取組を充実させるとともに、危機発生時には関係機関等と緊密に連携した取組が行えるよう、市行動計画を全面改定することとする。

（委員意見）

主な質問・意見等	回答・対応
福山市、呉市といった保健所設置市も行動計画を作るのか。	全国の市町村において策定することとされています。
都市の規模が違うが、すべての市町で同じような内容で作ることができるのか。	県内市町については、県が計画案のチェックを行います。それにより、ある程度、整理されたものが作成されると思われます。 また、自治体の規模により内容に差はあります。
コロナ当時、保健師の負担が大きかった。市において保健師等従事者は十分いるのか。	本市においては、保健師の採用を増やすなどして体制を整えることとしています。
新型インフルエンザ等の中に、指定感染症、新感染症が含まれる。これらはいずれも対象となるのか。	呼吸器系の感染症を幅広くカバーする内容としています。
病院はどこも経営が苦しい。補助金なしでコロナのときと同じ対応ができるのか心配している。	財政上の措置については、政府行動計画において予算の確保に係る記載があります。本市においては、国が予算を措置した場合は、国や県と連携し、医療機関等に速やかに補助金等を交付できるよう努めてまいります。
県による医療措置協定が機能しない場合を想定する必要がある。また、薬がなくなったときの具体的な対応を考えないといけない。	御意見を踏まえ、記載を工夫いたします。
素案の第2条において基本的な考え方と基本的な戦略の順番については、「考え方」を踏まえて「戦略」が組まれることを考えると、逆がよいのではないか。	御意見を踏まえ、修正いたします。

2 感染症に関する最近の情報（資料2）

季節性インフルエンザの流行状況について

インフルエンザについては、広島県感染症発生動向調査において、第41週(10月6日～12日)の患者報告数が1医療機関当たり1.0を上回り、過去10年間で2番目に早く流行入りした。その後、患者報告数はさらに増加し、第45週(11月3日～11月9日)のインフルエンザ患者の報告数が西部東、北部及び広島市保健所管内で注意報開始基準値(1医療機関当たり10人)を上回ったことから、広島県は、令和7年11月13日付けで県内全域に「インフルエンザ注意報」を発令している。

本市におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告については、令和7年9月29日以降、第45週時点で30件に上る。このうち18件は第45週に報告されており、感染の急拡大の傾向がみられる。

また、国は、令和7年11月12日、今冬の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザをはじめとする急性呼吸器感染症の感染拡大に備え、「令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策」を取りまとめた。これまでインフルエンザ以外の急性呼吸器感染症に対する包括的な方針は示されていなかったことから、予防指針が見直され、インフルエンザを含む急性呼吸器感染症全般に関する総合的な対策が進められることが期待される。

本市においては、今後、年末を迎えるに当たり人の移動・交流が増えるため、今後、さらに流行が拡大する可能性が予想される。市民に対して手洗いや咳エチケットの励行など、インフルエンザをはじめとする急性呼吸器感染症の感染予防対策を徹底するよう市のホームページ・SNS等、広報媒体を活用し呼びかけていく。

（委員意見）

- ・ インバウンドなど移動の活発化によりこれまで流行時期が変化する恐れがあるため、感染拡大防止の観点から早期に予防接種できることが重要である。

3 10月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料3、4）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

4 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和7年10月分	令和7年11月分
		報告日 10/6～11/2	報告日 11/3～11/12 現在
2類	結核	5人 (結核 3人, 潜在性結核 2人)	0人
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人(1人(10/20), 1人(10/21))	1人(11/12)
4類	レジオネラ症	2人(1人(10/16), 1人(10/18))	
5類	急性脳炎	2人(1人(10/9), 1人(10/28))	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(10/24)	
	後天性免疫不全症候群	1人(10/28)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人(10/28)	
	水痘（入院例に限る。）		1人(11/5)
	梅毒	8人(1人(10/6), 1人(10/9), 1人(10/10), 1人(10/14), 1人(10/17), 1人(10/20), 2人(10/29))	5人(1人(11/4), 1人(11/5), 1人(11/6) 2人(11/10))
	百日咳	52人(6人(10/6), 5人(10/8) 1人(10/9), 2人(10/10), 1人(10/11), 4人(10/14) 1人(10/15), 3人(10/16), 3人(10/17), 2人(10/17), 2人(10/18), 3人(10/20), 1人(10/21), 4人(10/22), 3人(10/23), 1人(10/25), 5人(10/27), 1人(10/28), 4人(10/29), 3人(10/31))	6人(2人(11/4), 2人(11/7), 2人(11/10))

() は届出日

5 その他《公開》

次回開催予定日 令和8年1月19日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：

資料2：最近の感染症情報

資料3：月の感染症の概要

資料4：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は10,695人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は1,808人で、前月比0.90とやや減少した。

インフルエンザは大きく増加、RSウイルス感染症、水痘、マイコプラズマ肺炎は増加、咽頭結膜熱、手足口病はやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、流行性角結膜炎、急性呼吸器感染症（ARI）はほぼ横ばい、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、ヘルパンギーナはやや減少、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は大きく減少した。

(2) 特記事項

- インフルエンザは、第42週（10月13日～19日）に流行期に入った後増加し、第45週（11月3日～9日）には、注意報レベル（定点当たり10.0人）を上回る定点当たり11.23人の報告があった（図1）。また、今シーズンのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は、11月9日までに30件報告されている。県内では、11月13日にインフルエンザ注意報が発令され、今後も更なる流行の拡大が予測されるため、手洗いの励行、咳エチケットなど感染予防対策を徹底する必要がある。市内2か所の協力医療機関による迅速診断キットの検査結果では、今シーズンはA型が242人、B型が2人と、A型が99.2%を占めている。また、広島市衛生研究所によるARI病原体サーベイランス検査では、今シーズンはインフルエンザウイルスA（H3）型が10件、A（H1N1）2009型が1件検出されている（11月9日現在）。
- マイコプラズマ肺炎は、第45週に定点当たり5.67人の報告があった（図2）。本市・全国ともに過去最多の報告があった昨年と同様、夏以降増加傾向となっている。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策が重要である。

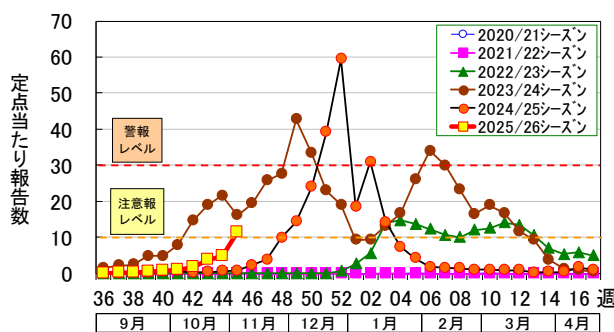


図1 インフルエンザの流行状況（広島市）

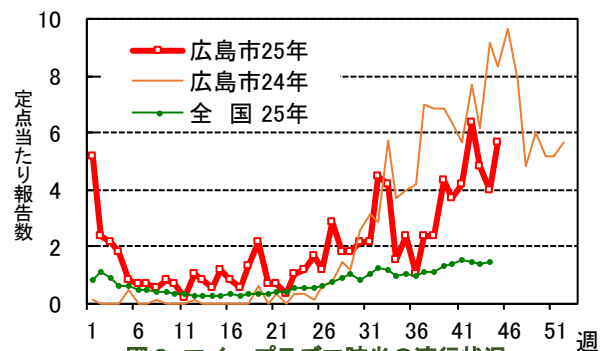


図2 マイコプラズマ肺炎の流行状況

- 流行性角結膜炎は、多い状況が続いており、第45週に定点当たり3.13人の報告があった。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなどの感染予防対策が重要である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、増加傾向であり、第45週に定点当たり3.41人の報告があった。手洗いや咳エチケットの励行などの感染予防対策が重要である。
- RSウイルス感染症は、第45週に定点当たり0.77人と減少傾向である。生後6か月以内の乳児や慢性呼吸器疾患などの基礎疾患を有する高齢者が感染した場合は重症化しやすいため、注意が必要である。
- 百日咳は、減少傾向が続いている。乳児は重症化リスクが高く、特に注意が必要である。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。

(3) 10月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核5件（患者：3件、潜在性結核：2件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：レジオネラ症 2件
- 5類感染症：急性脳炎 2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 2件、梅毒 9件、百日咳 57件

(4) 今後の流行予測

インフルエンザ、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、百日咳・・・【流行中】

2 検査情報

10月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
流行性角結膜炎	アデノウイルス 54 型	5 月	1 人
	アデノウイルス 54 型	7 月	2 人
	アデノウイルス 37 型	8 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 1 型	9 月	1 人

5 人の患者から 3 種類のウイルス 5 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス 54 型が 3 株、同 1 型及び同 37 型が各 1 株であった。

3 感染症法 5 類全数把握薬剤耐性菌感染症患者からの分離菌株解析結果 (2025. 4～10 月分)

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	菌 種	カルバペネマーゼ遺伝子※
2025 年 4 月	79	南	尿路感染症、創感染	腎盂尿、膿	<i>Enterobacter cloacae</i>	<i>bla</i> _{IMP-6}
2025 年 6 月	66	安佐南	尿路感染症、発熱	尿	<i>Escherichia coli</i>	検出せず
2025 年 8 月	85	東	胆嚢炎	胆汁	<i>Escherichia coli</i>	<i>bla</i> _{IMP-6}
2025 年 8 月	87	中	肺炎	喀痰	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	<i>bla</i> _{IMP-6}

※ 検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型：KPC, IMP, NDM, VIM, OXA-48, GES, KHM, SMB, IMI

4 月及び 6 月に各 1 件、8 月に 2 件の届出があった。分離菌株は *bla*_{IMP-6} を保有する *Enterobacter cloacae*、*Escherichia coli* 及び *Klebsiella pneumoniae* が各 1 株、カルバペネマーゼ遺伝子不検出の *Escherichia coli* が 1 株であった。

【参考】ARI 病原体サーベイランス検査結果（広島市感染症週報より）

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	インフルエンザウイルス A(H3) 型	インフルエンザウイルス B 型（ビクトリア系統）	インフルエンザウイルス B 型（山形系統）	新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）	A 型 RS ウイルス	B 型 RS ウイルス	ヒトメタニューモウイルス	パラインフルエンザ ウイルス 1 型	パラインフルエンザ ウイルス 2 型	パラインフルエンザ ウイルス 3 型	パラインフルエンザ ウイルス 4 型	ライノウイルス／エンテロウイルス	アデノウイルス
第40週	21	15	1				5					1			10	3
第41週	18	8					1		1		2				4	1
第42週	12	9		2			1	1			2	1			3	1
第43週	15	10		4			1		1		1				3	2
第44週	17	13		3			1				1				8	1

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む（検査：広島市衛生研究所）

5類感染症定点情報
(令和7年10月解析分)

1. 週報対象(第41週～第44週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症(ARI)	⇨	8,887	253.92		11	突発性発しん	⇨	22	1.00	
2	インフルエンザ	↑	381	10.89	流→	12	ヘルパンギーナ	⇩	15	0.68	
3	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	↓	268	7.66		13	流行性耳下腺炎		5	0.24	
4	RSウイルス感染症	↗	163	7.40	流→	14	急性出血性結膜炎		-	-	
5	咽頭結膜熱	⇨	27	1.22		15	流行性角結膜炎	⇨	75	9.38	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇨	215	9.78		16	細菌性髄膜炎		-	-	
7	感染性胃腸炎	⇩	318	14.45		17	無菌性髄膜炎		3	0.51	
8	水痘	↗	21	0.96		18	マイコプラズマ肺炎	↗	116	19.33	流→
9	手足口病	⇨	52	2.37		19	クラミジア肺炎		-	-	
10	伝染性紅斑	⇩	94	4.27		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(10月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	⇩	32	3.56
2	性器ヘルペスウイルス感染症		10	1.11
3	尖圭コンジローマ		5	0.56
4	淋菌感染症	⇨	18	2.00
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↗	33	5.50
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	⇨	⇩
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇨	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数(令和7年10月分)

第41週～第44週(10月6日～11月2日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	5	102	1,096	11,938
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	-	1	8	50
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	28	542	3,781
	18 腸チフス	-	-	3	28
	19 バラチフス	-	-	-	8
四類	20 E型肝炎	-	3	44	492
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	5	9	118
	23 エキノコックス症	-	-	3	26
	24 エムボックス	-	-	2	8
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	-	9
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	-	6
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	-	6
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	14	183
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	2
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	20
	40 つつが虫病	-	-	2	109
	41 デング熱	-	3	16	146
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	4	114	620
	46 日本脳炎	-	-	2	2
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリノス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	-	19
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	16
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	1
	61 レジオネラ症	2	28	257	2,073
	62 レプトスピラ症	-	-	16	51
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	2	34	380
	65 ウイルス性肝炎	-	3	20	207
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	9	79	1,041
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	4	29
	68 急性脳炎	2	7	42	454
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	3	23
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	14	155
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	15	79	1,170
	72 後天性免疫不全症候群	1	7	64	718
	73 ジアルジア症	-	-	2	33
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	5	34	567
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	1	68
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	2	25	127	2,838
	77 水痘(入院例に限る。)	-	3	42	563
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	9	129	1,035	11,765
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	13	144
	81 破傷風	-	1	7	82
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	14	79
	84 百日咳	57	1,001	3,960	84,679
	85 風しん	-	-	-	10
	86 麻しん	-	2	3	232
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	9